

ひるまだより



OPひるま歯科 矯正歯科
OP Hiruma Dental Clinic

〒190-0012 立川市曙町1-36-1 曙第3ビル2F
TEL=042-526-3376 HP=http://www.hiruma.or.jp/
E-mail=clinic-contact@hiruma.or.jp

2月

日	月	火	水	木	金	土
	01	02	03	休	05	06
休	08	09	10	休	12	13
14	休	16	17	休	19	20
休	22	23	24	休	26	27
28	休					

3月

日	月	火	水	木	金	土
	01	02	休		04	05
06	休	08	09	休	11	12
休	14	15	16	休	18	19
休	休	22	23	24	25	26
休	28	29	30	休		

▶1月より、祝日がある週の木曜は診療します。本誌またはHPでご確認ください。



最終的に歯を少しずつ取り除いたように、歯をくぐく音も聞こえなくなりました。

◆ワイヤーをつける前に抜歯しましたか。
——僕の場合は上下5番と親知らずを2本抜き、第2大臼歯がまっすぐに生えてくるスペースを作る必要があると説明を受けました。親知らずの抜歯は今思い出しても本当に大変でした。う

——小さい頃は家族でアメリカに住んでいて、12歳の時に帰国しました。帰国後しばらくしても第2大臼歯が生えてこないのを母が心配し、自宅近くの歯科医院でレントゲンを撮ってもらったのですが、「歯が真横に生えていて難しい症例のため、うちでは治療できません」と言われたのです。その頃、母が自分の歯の矯正治療でOPひるま歯科矯正歯科に通院していたので、先生に相談したところ、「対応できます」と応えてくださったので、僕もOPひるま歯科矯正歯科で診てもらったことになりました。

◆矯正治療を始めたきっかけを教えてください。
——もともと滑舌があまりよくないのですが、ワイヤーをつけたことで特に「さ行」の発音がしづらくなりました。治療中は自分でも、ゆっくりはつきりしゃべるように意識していました。

患者さんインタビュー35 Sさん
難しい症例でも対応してくれて感謝
正常な歯並びになっ嬉しかった
インタビューの内容をタイポグラフィ版でお届けします。全文はホームページに掲載していますので、ご覧ください。

◆OPひるま歯科矯正歯科で治療をしてよかったですか。
——疑問に思ったことを質問した時に即座にわかりやすく答えてくださったので治療中不安になることがなく、よかったと思います。また歯の手入れについて、いいねに教えてもらえたのもよかったです。歯みがきの後にフッ素を使うなど、むし歯にならないよう毎日ケアを続けることが大切だと教えてもらいました。

◆歯並びがよくなったと感じたのはいつですか。
——歯の変化をいちばん実感したのは今まで横に倒れていた第2大臼歯がまっすぐに生えてきたことに気づいた時です。治療が終わって口をあけると大きな奥歯が1本増え、正常な歯並びになっていることがわかり、とても嬉しかったです。書間先生は、僕のようなケースはめずらしく、これまで2症例目だとおっしゃっていました。自分では、治療期間が長かったので「やっと終わった」という気持ちが大きかったですね。治療費を払ってもらった両親には感謝の気持ちでいっぱいです。

◆ワイヤーはかがでしたか。
——もともと滑舌があまりよくないのですが、ワイヤーをつけたことで特に「さ行」の発音がしづらくなりました。治療中は自分でも、ゆっくりはつきりしゃべるように意識していました。

初診時の診断

中立咬合・叢生歯列弓
下顎左右第2大臼歯埋伏

Sさんの症状について解説します

OP ひるま歯科 矯正歯科 院長 書間康明



初診時（13歳）



開窓・動的治療開始時



7番に牽引用装置を装着した

下顎左右7番のコントロール



ワイヤーでコントロールを開始

動的治療終了時



牽引した7番も咬合している

13歳の時、第2大臼歯（7番）の埋伏について他院では治療が不可能だったため当院を受診されました。上下顎歯列の前後的な位置関係に明らかな問題は認めず、叢生も軽度でしたがわずかに上顎前歯が挺出し過蓋咬合を認めました。上左右5番の頬舌的な180度捻転、下顎左5番の90度捻転を認めました。下顎左右7番は口腔内に萌出していませんでした。

成長期にあり顎骨が成長により変化する可能性がある事、下左右7番の歯根が完成していない事などから、初診時の治療方針は7番の歯根形成および顎骨の成長確認のための経過観察としました。

16歳7ヵ月に再度検査・診断しました。下左右7番の歯根は成長したものの依然として埋伏したままだったため、下左右8番（親知らず）、上下左右5番を抜歯して動的治療を開始、8番の抜歯後に7番の歯肉切除（開窓）を行い牽引用のブラケットを接着しました。5番抜歯スペースに6番を移動した事により7番はある程度自然に萌出てきました。そこで7番にワイヤーを通し、コントロールを行いました。

治療結果は、前歯部の過蓋咬合も改善されすべての歯がバランスよく接触する咬合関係を得る事が出来ました。下左右7番も口腔内に萌出し上下顎で安定した咬合を得る事が出来ました。